

# 人生の困難にぶつかったとき、 前に進むために大切なこと。

## VOL.7「人生が動いた瞬間」

箏奏者として研鑽を積んだ後、京都の本願寺に嫁ぎ、裏方の厳しい日々を乗り越えた大谷祥子さんを講師に迎えた「ガマダン・アカデミーVOL.7」。今回は、箏の生演奏を交えながら、「人生が動いた瞬間」というテーマで、ご自身の貴重な体験をもとにお話をさせていただきました。

大谷さんが本願寺に嫁いだのは32歳の頃。全く別の世界へ飛び込み、京都大学の仏教学科に聴講生として通う日々。「信心が第二」という浄土真宗の教えに救いを求め、もしも、どうしたら信心が身につくのか分からず、どこにも出られなくなるほど、閉塞感に苛まれていたといいます。

そんなときに出会ったのが、福井県のある門徒さんの「お天道様のおかげ、蓮如様のおかげ」という言葉。その年、稲が豊作だったという報告を受け、「努力が実りましたね」と言った後、思いがけず返ってきたその言葉に、涙が溢れ、信心とはまさしくこのことだと感じたそうです。

北陸の人たちの「おかげさまで」や「ありがとう」という口癖。その根本には、自分の力だけで生きようとは思わないうい、また、周りの力に支えられているのだという気づきがあります。そのことが分かったとき、大谷さんの心持ちも変わり、心持ちが変わると、目に見える世界も、箏を奏でるその音も、劇的に変わっていったといいます。

人生の困難にぶつかったとき、自分の心持ちを変えてみる。そうすると、自ずと道は開かれていくかもしれません。



ガマダンアカデミーVOL.7

「人生が動いた瞬間」

講師／箏曲家・本願寺 裏方

大谷祥子さん

Profile／東京藝術大学卒業後、箏曲家として活動。32歳のときに京都・本願寺に嫁ぎ、仏法に身をゆだねる立場に。本願寺裏方、吉崎御坊蓮如上人記念館館長、蓮如の道を歩む会会長、ジャポニスム振興会副会長など、多方面で活躍中。



■石川県 石田屋「眠音」Vol42号に紹介されました